

中国入学生の日本語学習における問題点について

松下 教子

まえがき

一九八七年九月から八八年七月までの約一年間における上海外国語学院での中国入学生に対する日本語教育の経験にもとづき、かれらの日本語学習において如何なる困難点が存在するかを、初学段階の発音と作文、および中級段階の作文教育の観点から考察した。

一、初学段階における発音上の困難性とその指導法においては、初めて日本語を学ぶ学生の発音が出身の省によって難易の差のあることに着目し、有効な練習法について述べる。

二、初級学習者の作文における誤用の集約とその分析の試み、では学習を始めて三ヵ月目に書かせた作文と五ヵ月後の宿題の手紙のなかに見られる誤用を集約して、若干の分析を試みた。

三、中級学習者の作文に見られる用語の母国語による干渉について、では学習歴八年程度の学生の課題作文ならびに自由日記のなかから漢語を使用する中国語が母国語であるが故に生じたと考えられる誤りを集約して、その原因に

ついでの考察をも試みた。

四、むすびにおいては、初級学習者と中級学習者との、学習状態の比較を試み、中国人に対する日本語教育が日本人によっておこなわれる場合に見られる効果に触れる。

一、初学段階における発音上の困難性とその指導法

ひらがなの五十音図の発音を「あ行」から練習させるさい、「ら行」と「た行」「だ行」の発音がうまくできない学生が若干いた。「た」の発音がどうしても「だ」となってしまう。中国語で最も頻繁に使用される「的」による干渉と当然考えられるが、出身の地域によって学生に発音の難易度に差異があることも認められた。たとえば上海出身の学生は、上海語の発音が日本語の発音に近いこともあるように、うまく発音できる。「謝謝シエシエ您」という漢語に対して上海語での発音は「シャシャノン」で通用するが如くである。

担当した初級のクラスの学生の出身地は上海市2名、四川省2名、安徽省2名、浙江省2名、河南省、山東省、湖北省、江蘇省、甘肅省各1名の計13名(女性8名、男性5

名) だった。とくに山東省出身の男子学生に発音の困難性がみられた。かれの場合は「ら行」にも困難性があった。「あります」の「り」がうまくできなかった。ちなみにこの学生だけが中学で英語を学ばずロシア語を学んできていた。それとの関連はよくわからない。「た」を「だ」と発音する誤りはとくに湖北省出身の女子学生の場合に著しく、四ヵ月位かかってようやくできるようになった。「た行」を「だ行」に発音する清濁の問題は、十分に長い期間日本語を学習して、実際に講義などで使用している学者(日本語専門の教師を除き)においても一般に広く見られるところだ、たとえば「私ノダントウ(担当) ハ」とか「……ニツイテ(について)」という例もある位である。

前記山東省出身の男子学生の場合、個人指導によって「ハラハラ」「ヒラヒラ」「フラフラ」「ヘラヘラ」「ホラホラ」という発音を使用情況も説明しながら繰返し練習させることによって克服することができた。もう一つの方法は教科書(後述)の会話文体で「本ガソコニアリマス」「コレハイクラデスカ」など具体的な使用例を使って練習させた。これは湖北省出身の女子学生の場合にも当てはまる。

かの女の場合の「た」の「だ」への誤用は、教科書のなかの単語「フデ」「ダクオン」「ヒキダシ」「デンワ」と比較・区別させながら「タチウオ」「タオル」「ハタキ」「ワタ」など練習させた。とくに「ハタ」と「ハダ」、「タンゴ」と「ダンゴ」というふうに対照区別することは効果があった。このさい効果のあがるやり方として使用教科書(上海外

国語学院日語教研室編『日本語(にほんご)』第一冊)の「清塚音対比練習」(24〜25ページ)に負うところ大である。あし(脚)——あじ(味道) くつ(鞋)——くず(碎块) いと(銭)——いど(井) おさげ(酒)——

おさげ(髮辮) はし(筷子)——はじ(耻辱) おかず(菜)——おかす(犯) ガラス(玻璃)——からす(鳥

鴉) しんしつ(寢室)——しんじつ(真実) かんじ(汉字)——かんし(汉詩) よくしつ(浴室)——よく

じつ(次日) かぞく(家属)——かそく(加速) こし(腰)——こじ(孤儿) などである。

次に同教科書の「長短音対比練習」(39〜40ページ)が発音練習に大いに役立った。

くつ(鞋)——くつう(痛苦) おかし(点心)——おかし(可笑的) ヘヤ(房間)——へいや(平原) ごぜん(上午)——ごうぜん(袁然) ベル(電鈴)——ベール(面纱) いえ(房子)——いいえ(不) おばさん(阿姨)——おばあさん(仍仍) ビル(大楼)——ビール(啤酒) ちず(地図)——チーズ(干酪) おじさん(叔叔)——おじいさん(爷爷) など。

先に述べた清音と濁音の誤用は、韓国・朝鮮人の日本語使用のさいの特徴的なものとして通例あげられるところであるが、中国人の日本語学習にも必ずついてまわる誤用として認められる。この誤用は、作文の場合になると、右二例の学生にとどまらず、他の学生においても全般的な誤用の例として挙げなければならない。以下作文における誤

用誤字の問題へと移る。

二、初級学習者の作文における誤用の集約

1 清濁音の誤用の例 (「」内は訂正したもの)

○三日過して「て」いました。

○私達は二年の時まだ「また」松下先生に教わりたと思
います。

○彼はまだ「また」親切でおもしろいです。

○電車で家へ帰って「て」……

○ひまを利用して「して」……

○〇さんは私を希望して「して」……

○後時先生を希望して「して」…… (この二例については
後からも述べる)

○いろいろな物を食べて「て」……

○わたしは長い間考えで「て」、どうしても考えてきませ
ん「考えることができません」。

○いまちようと「ど」朝の九時です。

○今日とても寒いでしょう「今日はとても寒いでしょう」。

○パーデ「パーティ」

2 助詞の誤用の例

①「の」の誤用

○歴史が古いの城「歴史の古い城」

○冬休みのの中で「冬休み中に」

○毎週の月曜から土曜まで「毎週月曜から土曜まで」

○いろいろなの答え「いろいろな答え」

○私も遠いの所——四川省から来ました「私も遠い所——
四川省から来ました」

○旧正月は毎年の一番祝日です「旧正月は毎年一番の祝日
です」

○私たちのはじめの日本語先生です「私たちのはじめての
日本語の先生です」

○私の日本語の勉強のはじめった時「私の日本語の勉強が
はじまった時」

○時々夢の時に見て「時々夢を見て」

○日本語を習ってのは四ヵ月しかありません「日本語を
習って四ヵ月しかありません」

○もう九ヵ月間の先生に教わるので「もう九ヵ月間も先生
に教わるので」

○中の松下先生は日本人の先生です「その中で松下先生は
日本人の先生です」

○私は書きたいのはたくさんあります「私は書きたいこと
がたくさんあります」

②その他の助詞

○今日は今学期に最後の授業です「今日は今学期(の)最
後の授業です」。

○勉強して早くまで上手になりたいです「勉強して早く上
手になりたいです」。

○私はある日に日本で先生に訪ねる時「私はいつか日本で
先生を訪ねる時」……

○先生私に笑わない方がいいと考えます「先生私を笑わな

い方がいいと思います」。

○私は妹と二人はあまり疲れないでしたけれど「私と妹の二人はあまり疲れませんでしたけれど」……

○物理先生の家を「物理の先生の家を」……

○私はいい先生がいます「私にはいい先生があります」。

○夏のとき太湖の近くきくと楽しいです「夏には太湖の近くはきくと楽しいです」。

○たくさんな問題をききました「たくさん問題をつたねました」。

○バナナやお菓子や持って来ました「バナナやお菓子を持って来ました」。

○私たちに食べました「私たちは食べました」。

○ある日に先生が病気だ、私たち七人は先生のところにお見舞いに行きました「ある日先生が病気で、……」。

○遠足に行ったこと話しました「遠足に行ったことを話しました」。

○一か所と二か所まちがえます「一か所か二か所まちがえます」。

○先生の最初の自分を紹介した時わたしはいろいろ先生を知っていました「先生が最初に自己紹介した時わたしはいろいろ先生のことをすでに知っていました」。

○先生のわたしたちを見方は正確です「先生のわたしたちの見方は正確です」。

○早く先生を会いたいです「早く先生と会いたいです」。

○私は日本語で中国語で手紙を一枚ずつ書きました「私は

日本語と中国語で手紙を一枚ずつ書きました」。

○松下先生と季先生よく日本語で私たちと日本語の会話を練習します「松下先生や季先生と私たちはよく日本語で会話の練習をします」。

○松下先生は、私が、第一の日本人をあいました「松下先生は私をはじめであつた日本人です」。

○いい先生は私たちを教えます「いい先生が私たちを教えます」。

○私たちは先生が二人あります「私たちには先生が二人います」。

○駅で父を会いました「駅で父と会いました」。

○先生と友達を会った時「先生と友達に会った時」……

○私はとても嬉しかったで「私はとても嬉しかったので」……

○私はよく忙しかったで「私はとても（大変）忙しかったので」……

○勉強についてのこと言います「勉強についてのことを言います」。

○三年生からも先生を聞いていました（三年生からも先生のことを聞いていました）。

3 動詞の誤用

① 音便（主として促音便）

○日本語を始めて習っています「……習っています」。

○日本語を教えて下さっています「……下さっています」。

○ひとびとは全部新年を待ちて「……を待って」……

○映画院へ行くロシア映画をみました「映画館へ行って……」

○皆様よろしくおっしゃって下さい「……おっしゃって下さい」。

②活用の誤り

○日本語の習ってのは四ヵ月しかありません。

この例は前にも出しましたが、次のようにも訂正できる「日本語を習ったのは四ヵ月でしかありません」。

○来ないんです「来ませんでした」。

○家に着きました「家に着きました」。

○簡単に書きました「……書きました」。

○つづけて書いなければなりません「つづけて書かなければ……」

③時制の混同

○先生をはじめて見せる時「先生とはじめて会った時」これには他動詞と自動詞の混用もある。

○この手紙が先生に着いたのはたいがい私達の旧正月のときです「この手紙が先生のところに着くのはおよそ私達の旧正月のときでしょう」。

○来学期に松下先生の授業はきつとおもしろいです「来学期には……おもしろいです」。

○先生は日本の者で中日友好に貢献をいたしました「先生は日本の方で……よく貢献しております」。

○私のはじめて知っている外国人です「私のはじめて知った外国人です」。

○これでわたしはもう日本語がだいすきでした「……だいすきになりました」。

○今度離れるといつか会ったまで何年もかかるか知りますか「今度別れるといつかまた会うまで何年かかるかわかりません」。

④その他の動詞の誤用（内容上からのもの）

○じょうだんをしたりして「じょうだんを言ったりして」……

○彼女は冗談して「……冗談を言って」……

○私はほしいです、みんなほしいです「私は先生に習いたいです、みんな先生に習いたいです」。

○教えて続けてください「続けて教えてください」。

○会話の練習して復習しています「会話の練習をして復習をしています」。

○家族全員にあいさつをしていただけませんか「家族の皆様によろしくおっしゃってくださいませんか」。

○私は、家族全員と松下先生たちに無錫へいらっしゃい「私と家族全員は松下先生たちを無錫へ招待いたします」。

○私たちを手伝って会話の練習をします「私たちを助けて会話の練習をしてください」。

○質問を聞きます「質問をします」。

○薬をもってくださいました「薬をもって来てくださいました」。

○先生は一人で外国へ行って、仕事をしています「……外国へ来て、仕事をしています」。

○私は先生がとった写真を持出しました「……写真を出して見せました」。

○彼女はよく私達と日本語の会話を練習します「彼女は私達に日本語の会話をよく練習させてくれます」。

○私は目がはれていました。先生は見えました「……先生は気づきました」。

○Oさんは私を希望して日本語の勉強をがんばります「Oさんは私に教えてもらうことを希望して日本語の勉強をがんばっています」。

○後時先生を希望して日本語の勉強を手伝います「その後も先生に日本語の勉強を手助けしてもらうことを希望します」。

○私は今年の九月二十五日に日本語の授業を始めました「……日本語の授業を受け始めました」。

○私は一年一組で授業をしています「……授業を受けています」。

○私たちはよく関心しています「私たちはとても感心しています」。

4、助動詞

○それは日本語の勉強にいいですと思います「……いいと思います」。

○私は絵を書くのを習って、上手になるまで、先生を書きますと思うています「……先生を書きたいと思っています」。

○内容はおもしろいでした「……おもしろかったです」。

○時間はすごく速いわね「時のたつのはすごく早いですね」。

○先生は日本に帰った時ともうれしいと思います「……日本に帰ったらともうれしく思うでしょう」。

○私はとても疲れました、でも、楽しいでした「……でも楽しかったです」。

○兄と姉はみんな嬉しいでした「兄と姉はみんな喜びました」。

○毎課の最後にかんたんな試験があります。私たちは、あまりわかるところを知っています「……私たちは、よくわからないところがわかるようになります」。

○私は嬉しいですね「私は嬉しかったですよ」。

○中国語を早く上手になりたいで「……なりたくて……5、名詞の誤用

○私に古里の景気を紹介しました「私に故郷の景気の状況を説明してくれました」。

○先生に多いものを習いました「先生に多くのものを……」。

○子貢と公園へ行って「子供と公園へ……」。

○時々小さく音で歌をうたいました「時々小さい声で……」。

○もしようじつは先生の授業があればみんなうれしいです「もし一週間(曜日)つづけて先生の授業があればみんなうれしいです」。

○毎日家族に気楽がじゅうまんしています「毎日家族には

楽しい気持が一杯です」。気楽とは中国語で轻松、心が軽やかで楽しいこと。

6 形容詞、副詞の誤用

○先生のこわい孫子「先生のかわいい孫さん」

○無錫より熱いですね「無錫より暑い……」。

○日本語がもともと好きです「日本語がとても大好きです」。

○これからいつでも先生を忘れられないと思います「これからいつまでも……」。

○整体にみんな先生が好きです「全体にみんな先生が好きです」整体とは中国語で集合体の全部を指す、全体のこと

○今までたいして一年もたちました「今まで大体一年たちました」。

7 非日本語的発想による文体

○来学期先生は私たちを教えますよう、それはいいですね。
○私は日本語が好きではありませんでした。これはなぜですか。

右の用例は日本語で表現すれば、「来学期先生が私たちを教えてくださいますようお願いします」となるわけだが、日本語的発想とはほど遠く、むしろ欧米語の表現法に近いものが感じられる。第二の例も日本語で表現すれば、「なぜだかわからないが、私は日本語が好きではありませんでした」ということになるが、この学生が高校でロシア語を学んでいたことを考えると、「これはなぜですか *pro čemu?*」というロシア語の自問自答の文句をそのまま日本

語に移し入れたものと考えられる。

助詞の用法について若干コメントすれば、これらの作文および手紙を書いた時点では、教科書で助詞について学習した事項は次の二項目でしかなかった。

「日本語の品詞」のなかで「(12) 助詞」として「格助詞、提示助詞、並列助詞、副助詞、連接助詞、終助詞」の例があげてある(一三九ページ)のと、「文節の種類」のなかで「は」「も」「が」「を」ならびに一般用格助詞による文例(一四一〜一四二ページ)があげられていることである。また格助詞「に」のまとめ、および格助詞「で」のまとめは、その時点以降説明がされることになっていた。

このように教科書による文法的説明によってよりは、実際の会話的文例によって、反復練習、朗読暗誦しながら学んでゆく方式がより多くとられたので、教科書の文法の進度如何にかかわらず、学生は習得した日本語の語彙をフルに活用して十分に作文や手紙が書けたのである。

なお動詞に例をとれば活用の練習は教科書ではまだされていないので、基本的な誤りは当然みられる。助詞の使用法の基本的な誤りがみられるのもいたし方ないことであろう。

それ故にここに拾い上げた各品詞の誤りは、これが十三名の学生の作文二回と手紙一回からの全部であるわけで、他の部分はすべて正しく書かれた日本文ということになる。

例として学習開始後四ヵ月して書かれた一女子学生の手紙(春節休暇中一時帰国していた筆者への宿題としての)

を次にあげてみる。

尊敬的松下先生

您好吗？

まず、新年おめでとうございます。

私は○○です。いま、先生に手紙を書いています。先生はともいい教師で、私はだいいすぎです。

冬休みの中、私は毎日忙しいです。やることがたくさんあります。いろいろな本を読んだり、家事の手伝いをしたり、切手の収集をしたりしてすごしています。そのほかに、日本語と英語の勉強もします。新しいことばを習って、朗読をして、カセットを聞きます。勉強はなまけてはだめでしょう。また、私は静なところで一人書を読むのが一番好きです。

時間はすごく速いわね。あしたは旧正月のついでです。私は一つ年上になります。私はもっともっと頑張らなければなりません。I'm sure すきこそ物の上手なれ。

您說呢、先生？

先生身体好吗？ 生活得快乐吗？ 小孙々一定很かわい吧？

ご家族の皆様によりしくおっしゃて下さい。お大事に。

您永远的学生 ○○

(注、傍線部は前に誤用として示した個所)

三、中級学習者の作文に見られる用語の母国語による干涉

について

担当したクラス二十二名の日本語学習歴は、その内十八名がすでに上海外語大付属の中・高校で六年、大学進学後二年の、計八年であり、他の四名は長春と武漢から受験して入って来た者で、大学進学後二年ということになっているが、これも何らかの形ですでに日本語を学んでいたと考えられる。このような学習者の作文は内容と論理の展開については申し分ないものであるが、やはり母国語でないだけどうしても誤りをまぬかれない。例えば助詞の誤用、動詞の能動・受動の混同、時称(過去と現在)の誤用などがついでまわるが、特徴的なものとして見られるのが、中国語からの直訳的表現、類似の中国語単語による誤用という母国語による干涉に起因する誤用である。これは双方の文字が漢字であること、そしてその意味が類似するものが多いことから、逆に生じる誤用でもある。ここにその観点からの実例をあげてみる。

1 中国語の「趣味」が「興味」という意味であることからの誤用。

○わたしはだんだん日本民族に趣味をもっている「っ」た。日本の政治経済についても趣味を持って「っ」た。

○高等学校時代になって、私はだんだん経済貿易について趣味があり「わいてき」ました。

○その時、私は数学、物理などに趣味を持って、将来物理学者になろうとしました。……大学生になってから、色々な学問に接触して、それに全部趣味をもって、全部やりた

いと思います。

この例は初級学習者においても、また既に日本語を使って活躍している研究者においても数多く見られるものである。

2 「養成」を「育成」の意味に使った例。

○両親は皆内向的な人間のためですか、私も知らずに内向的な性格を養成しました。

○人とつき合うのはいやで活発な性格を養成した。

○私はなんとかして強い意志を養成したいけれど……

3 漢語(中国語)の文字をそのまま使用した例。

○私が今まで小学校時代の友達と联络「連絡」して……

○きまりが悪くて言わない因素「要素」もあるし……

○日本人民にもこの戦争で灾难「災難」を受けさせました。

○私の夢は将来口訳「口頭通訳の意味」になることです。

○何でも模倣「模倣」すると思います。

○教師はまるで蜡烛「ろうそく」のように、人に光を与えるため……

4 熟語の中国語的表現

便利設詔「便利な詭設」

娱乐场所「歓楽街」

社会風儀「社会風俗」

円円太陽「まるい太陽」

社会范围「社会の範囲」

自立生活「自立した生活」

部屋メートル「ルームメイト」

友好関係「この場合、友人関係」

非常重要「非常に重要」

大学勉強「大学での勉強」

これらは中国語の造語法の直接的日本語化である。

5 能動的表現と受動的表現の混同。

○金色の太阳「太陽」は月に遮られて欠陥があった「欠けた」。その欠陥「欠けた部分」がだんだん大きくなって、太阳は残月のように空にぶらさげて「かかって」いた。

○でも非常に値段が高くてなかなか買えられ「買え」なかった。

○今日から忙しみに「忙しく」なってしまふ。午後一時四十分から四時まで日本の「の」桜美林大学の教授の講座を

聞かせ「聞かされ」ました。

○料理をつくることを習って「教えて」もらうこと。

○というのは、今まで習ったものは全部書物にのせた「のった(書かれている)」ものです。

6 その他

○強い根気で壮拳を完成した。

これは必ずしも誤用とはいえないが、日本語では「根気よく」となるであろう。「根気」は中国語の「耐性」(我慢強さ)にあたるので、こういう用法になったと思われる。

初級の学生で子供のことを子貢と書いていたのは、同音のために生じた誤りである。学生の場合ではないが、よく出来る通訳が、「明日は大きな男になりますよ」としきりに言うので、何のことかと思っていたら、「大丈夫ですよ」と

いうことだった。「丈夫」とは中国語で「成年男子、立派な男子」のことである。これも両国語が共通の漢字を使用することからきている。

次に極めて中国語的発想の文例をあげておく。

○秋の野原はきれいである。いたる所まで成熟の楽しみに満ちている。黄い稲は重い頭をぶらさげて、恥しいような姿をしていて、果物の木は赤いりんごや黄ろい柿などを抱いて、人人に収穫の嬉しさを話しかけているようである。

(原文のまま)

四、むすび

日本人教師が担当した場合、教師が日本語で質問し、学生に日本語で答えさせるのが学習の基本的形態であり、学生が教師に質問する場合も日本語で尋ねて、教師が日本語で答える。ところが中国人教師が担当したときは、ほとんどの場合教師は中国語で説明したり質問したりしたあと、日本語で答えさせる。また学生が質問する場合も同様である。そのため日本人教師担当のクラスは、必然的に日本語の語彙や文例にふれる機会がより多いため、他の中国人教師ばかりのクラスより成績がよい結果が出た。

中級作文のクラス(三年生)の学生は、初学段階で日本人教師に教わっていない。このことから初級で日本人が担当した一年生のクラスと比較してみる。三年のこのクラスは課題を与えて時間内に書かせた作文においては、誤用が極めて少ないと言いうことができる。これは学習歴に比例し

ているわけだが、他方日記や自由作文を宿題として提出させた場合、品詞の誤用が依然として多数みられる。これは一年生が四ヵ月ないし五ヵ月の学習歴において書いた作文や手紙の場合よりも、むしろその誤りは少なくないように思われる。

そういうわけで、日本人教師による日本語教育の利点として、初級クラスでは、日本語会話のテストのさいなど、動じない態度がみられ、日本語を使うことに自信をもっていると感じられた。また中級作文のクラスでは、毎回作文その他を訂正添削して清書させたことが、現在日本の大学院に進学している学生の言うところでは、翻訳や文章表現の上で大いに役立っているということである。

最後に、外国語の学習では、できるだけ母国語によらないで学習指導をする方が、学習者の自発的努力を喚起するという点で、極めて有利であると言えよう。

参考文献

- 講座日本語と日本語教育 6・7 日本語の語彙・意味(上)
(下) 玉村文郎編・明治書院
辞海 一九七九年版 縮印本 上海辞典出版社 その他日
中・中日辞典は略す。